

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	○	○	○
	やや良く なっている	一般小売店〔菓 子〕（総務担 当）	来客数の動き	・昨年よりも客数が増加している。
		コンビニ（店 長）	来客数の動き	・週末や休日の客数が増加している。全般的に客単価も増加しており、ファーストフードやデザートのようなプラス1品の買い上げが増えている傾向にある。財布のひもが緩んできていると感じる。
		衣料品専門店 （経営者）	販売量の動き	・気候の影響から、アウターの出足が好調であり、販売量、価格双方に寄与している。
		その他飲食 〔ファースト フード〕（経営 者）	販売量の動き	・売上が前年比で100%を超えるようになっている。単価の低い業態は良い一方で、高い業態は不振にあるとみられる。
		観光名所（職 員）	来客数の動き	・12月の入場者数が前年比5%近く伸びている。
変わらない		商店街（代表 者）	来客数の動き	・冬休み中の来街者数はさほど伸びていない。クリスマス直前にはある程度人出があったものの、良し悪しの差があり、底をはっているような状況である。
		百貨店（営業担 当）	それ以外	・来客数及び売上高共に、前年同月比は若干下回った。お歳暮は、ギフトセンター等の店頭部門で前年並みを確保したものの、非店頭部門では確保できなかった。ファッション関連商品は前年を下回っており、総じて前年を下回っている。
		百貨店（販売促 進担当）	お客様の様子	・先月苦戦したギフトは、客単価・客数ともに前年並みに回復したものの、クリスマスケーキ・おせち等の客単価が低下し、苦戦する状況になった。
		百貨店（売場担 当）	販売量の動き	・クリスマス用品、迎春用品などのリビング関係は順調であった。美術品など高額品は低調であった。外食や旅行など派手な支出を控えて自宅で過ごす場面が多くなっていると推測する。
		スーパー（企画 担当）	来客数の動き	・競合先が出現した地域での客数が、予測したほど落ち込んでいないが伸びてこない。安い商品を買回している。
		スーパー（財務 担当）	単価の動き	・デフレと競争激化により売価はますます下落方向にある。供給過剰による必然現象である。
		スーパー（企 画・営業担当）	来客数の動き	・衣料品を中心に、客数・買上点数共に好調を維持している。新型インフルエンザの影響があった昨年からの反動とみられる。また、青果物の相場高も続いており、生鮮品の客単価底上げに繋がっている。
		コンビニ（総 務）	来客数の動き	・たばこ増税の影響もあり、来店客数は前年を下回ったものの、客単価は上回った。景気が良くなったとは言えない。
		衣料品専門店 （経営者）	お客様の様子	・売上高は、年末という時期的要因により、3か月前に比べ若干増加した。
		衣料品専門店 （総務担当）	来客数の動き	・客単価は前年比プラスで推移しているが、客数は前年比で5%以上減少している。気温が下がり、重衣料の動きは良くなっているが、全体としては客の出足が鈍く、景気は依然として低迷している。
		一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・忘年会など年末需要は、11月に12月分の予約が入り始めたが出足は鈍く、12月に入ってからでも低調であった。電話などでの問い合わせも少なかった。
		観光型旅館（経 営者）	来客数の動き	・12月の忘年会ニーズは大口先も割りと多く、昨年より若干良かったものの、宿泊人員は伸びない。国内旅行が全体的に冷え込んでいることと、当方は競合先より多少価格設定が高いこともあり、伸び悩んでいる状況である。
		旅行代理店（支 店長）	販売量の動き	・海外個人旅行は、円高の影響で引き続き好調であるが、国内個人旅行は昨年を割込んでいる。年末年始の販売も、休みの並びや、年末の高速道路料金引き下げ除外の影響もあり前年を下回っている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比べて、また昨年比でも乗客数は3分の2程度の状態である。忘年会の数が少なかった様子である。売上高に関しては、9月とさほど変化はなかった。
		通信会社（企 画）	お客様の様子	・テレビ業界は、引き続き地上波放送のデジタル化の特需で好調である。全体的には、3か月前と比較し特に変わらない。

		美容室（経営者）	来客数の動き	・年末で客単価は高めであるものの、来店サイクルが長くなっている影響から、来客数は減少している。
		設計事務所（職員）	販売量の動き	・公共、民間共に、事業量が極めて少なく、新規受注量が増えない。過去の受注量のストックを食い潰しているのが現状であり、外注を減らすなどの経費節減でどうにか対応している。売上金額についても、維持することが精一杯であり、景況感はやや悪い状況に変わっていない。
やや悪くなっている		商店街（代表者）	来客数の動き	・来店客が減少傾向にある。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・この数年横ばいであったお歳暮の受注件数が、1割減少した。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	来客数の動き	・来客が少ない状況が続いている。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	お客様の様子	・忘年会の数が減少している影響で飲料店への卸は低調であり、客単価も低かった。
		スーパー（店長）	単価の動き	・単価が低下している商品もあるが、同様に販売量も落ちてきている。
		衣料品専門店（副店長）	お客様の様子	・年明け2日からのセール前に行う、顧客向けのシークレットセールをみても、セールだから買うという傾向が、年々少なくなってきた。また一方で春物に目を向ける人もいるが、こちらからすれば、セールの物を消化するという意味でセールをしたいが、客の様子からして難しい。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・NHK大河ドラマの効果は薄れている。实体经济は非常に悪く、特需がなくなったことで、来客数及び客単価は低下している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・本来なら忘年会シーズンのため、夜も街は賑わうはずであるが、今年は忘年会自体が少なく、人出に影響している。飲みに出ても1次会のみで早めに帰るのか、タクシー利用を控えているようである。日中も低調であり、悪くなる一方である。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・12月の予約状況は前年並みの水準である。しかし、予約の入る時期が遅くなっていることや、客単価が低下していることから、景気自体は悪くなっていると判断する。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・1日当りの売上で比較すると、12月は3か月前比で10%増加している。しかし、前年比では20%減少している。ビッグレース賞金王の場外発売に至っては前年比で29%減少しており、年末固有の力強さがない。
悪くなっている		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・欲しい物があっても我慢して貯金に回す傾向にある。
		スーパー（店長）	それ以外	・全体に不況感が強い中、12月は前半暖かく商売が難しかったが、後半は冬らしくなり売上が回復してきた。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・改定された家電エコポイント制度が12月1日からスタートしたが、11月までの反応が非常に高く、テレビ、エアコン、冷蔵庫のエコ3商品の売上が、前年比で大幅に低下し、厳しい状況になっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度の終了による販売量の減少が著しく、前年比5割程度である。影響が大きい。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の販売台数が下落している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度終了後の落ち込みが大きく、9月以前の販売台数水準は望めない。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度終了後、市場は完全に冷え切っている。12月中旬に主力のモデルチェンジ型である新型車を発表したがる、全く反応が無い状況である。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度終了と同時に、車を購入する客が減少しており、12月も受注数が下落したまま、来月以降も見通しが見えない。
企業動向関連	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・原糸価格が上昇しているが、順調な受注量であり、売上は増加している。
	木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・エコポイント制度の継続や法人税引き下げなどの政策や、メーカーが販売強化の様々な施策を講じていることが、功を奏している。	

	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・円高前の受注分が順調に生産できており、販売量も順調に推移している。	
変わらない	一般機械器具製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・限られた顧客への販売が主であり、販売価格の維持が難しい。	
	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・仕事をとれても受注価格が非常に低い。	
	通信業（営業担当）	それ以外	・周辺の様子では、消費に対する姿勢が二極化されている。節約疲れの反動からか、買物、旅行、飲みなど、自分の趣味には財布のひもが緩む者もいれば、一方で貯蓄に励む者もいる。両者とも増加している。	
	通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・需要の先細り感はないが、新規投資案件には慎重な姿勢が続いており、具体的なメリットが確実に見えないかぎり踏み込みがない。新規案件に対しても価格に厳しく、量的拡大が直接利益拡大に結びついていない。	
	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・印刷会社の倒産や統廃合の関係で、全国的に印刷機の台数が減少している。そのため、短期的には広告・チラシ等のB版輪転関係の仕事が溢れているが、あくまでも限定的である。また、受注単価は厳しく、薄利である。	
	公認会計士	取引先の様子	・取引先の当月決算や試算表から、前年比で若干のマイナスの企業がほとんどであり、景気の改善感はない。	
やや悪くなっている	食料品製造業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格の下落に伴い、安い物しか動かない、売れないという状況がますます強くなっている。	
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・12月は例年忙しく、残業しても間に合わないほどになるが、今年は少しの残業で間に合う状況である。	
	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・例年であれば、年末にかけてリニューアル関連の小規模工事が発生するのであるが、今年は大幅に減少している。	
悪くなっている	輸送業（統括）	それ以外	・顧客が商品をストックせず、必要分のみ注文するため荷動きが悪い。	
	輸送業（支店長）	取引先の様子	・荷主の長期にわたる生産調整により、前年同期と比較して扱い数量が減少している。	
雇用関連	良くなっている	—	—	
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・歳末もあって飲食業の客入りは好調に見受けられる。しかし、百貨店やスーパーなどはさほど思わしくない。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・企業内の生産ライン稼働率が上向いている。
	職業安定所（職員）	それ以外	・11月の有効求人倍率は0.69倍で、3か月前より0.14ポイント上回った。	
変わらない	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数も増加しつつあるが、求職者とのミスマッチも多く、現状と大幅な変化はない。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・ハローワーク基金訓練や県内労働局の就職支援セミナーといった行政からの教育事業受託は比較的好調である。しかし、転職サイト等の求人広告事業は求人、求職共に低調であり、特に優秀層採用への投資は、まだまだ回復する傾向にない。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人倍率は1倍に迫る状況であるものの、内容が正規ではないなど、数字に表れないマイナス要因も多く存在する。	
	学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・内定率は徐々に上昇してきており、それに伴い求職者数が徐々に減少しつつある。しかし、大きく好転しているとは言えない。	
やや悪くなっている	民間職業紹介機関（所長）	求職者数の動き	・求職者が例年と比べて減少している。理由のひとつとして、転職を考えても再就職が難しいとの認識により、現在の会社で取り合えず頑張ろうという人が増加していることが挙げられる。	
悪くなっている	—	—	—	